

Science Frontline

サイエンスアゴラ2006イベント「サイエンス・フロントライン」

2006年11月25日(土) 10:30-14:55 / 日本科学未来館7階会議室2 / 無料・予約不要

科学はどこまで進んだか。社会へのインパクトとは。最前線の研究者と語る、科学と社会。

1

月面探査の最前線 セレーネ計画とその先へ

10:30

|

11:25

月の調査を行う日本の人工衛星「セレーネ」が、来2007年にも打ち上げられます。各国間の月をめぐる探査競争の激化も予想されています。「セレーネ」の研究開発に加え、将来の月面探査計画にも参加している宇宙航空研究開発機構(JAXA)の岩田隆浩先生と、月面開発の現在とこれからについて議論を交わしていきます。



宇宙航空研究開発機構
岩田隆浩先生



セレーネ



東京理科大学
小林宏先生



マッスルスーツ

人を動かし、生かす技術 人間支援機械システムの開発

応用分野をつぎつぎと拡大しているロボット技術。人間の福祉に直結する医療やリハビリテーションの分野でも様々な研究がされています。そこでリハビリテーションや生活支援などを目的とした実用的なシステムの研究開発を精力的に行っている東京理科大学・小林宏先生に研究について語っていただきます。

2

11:30

|

12:25

3

DNA「開発」の時代 ATGCに新しい“文字”を加える

13:00

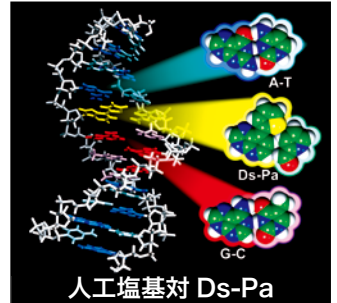
|

13:55

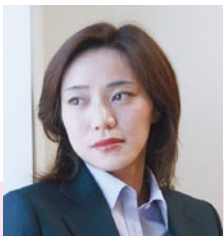
ヒトゲノム解読後の遺伝子研究は、まさに生命科学のフロントライン。DNAに人工塩基対を加えることに成功した理化学研究所・平尾一郎先生が、開発の意図や社会へのインパクトなどを語ります。また、安全性や、生命の設計図に人の手を加えるという倫理的問題についても取り上げ、“研究者との対話”を深めます。



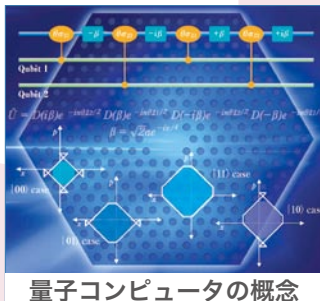
理化学研究所
平尾一郎先生



人工塩基対 Ds-Pa



国立情報学研究所
根本香絵先生



量子コンピュータの概念

量子の時代がやってくる 量子情報科学の現在

日常では考えられない振る舞いをする「量子」。その性質を利用し、絶対に解読されない「量子暗号」の研究が進められています。12月に『ようこそ量子—量子コンピュータはなぜ注目されているのか—』(仮)を出版する国立情報学研究所の根本香絵先生が、量子コンピュータのある未来について展望を述べます。

4

14:00

|

14:55

併催報告会

「科学技術ジャーナリズムの現場をたずねて」

2006年11月27日(月) 10:30-12:00 /

日本科学未来館7階会議室2 / 無料・予約不要

大学院生が今年の夏、各種報道機関や科学技術関連の研究所、省庁プロジェクトなどの、“科学技術ジャーナリズムの現場”をたずねました。ジャーナリストの卵たちがそれぞれの体験をレポートします。

アクセス

新交通ゆりかもめ
船の科学館駅 徒歩5分
テレコムセンター駅 徒歩4分
東京臨海高速鉄道りんかい線
東京テレポート駅 徒歩15分

日本科学未来館

エレベーター
または
エスカレーター
7階会議室2

主催 早稲田大学大学院
科学技術ジャーナリスト
養成プログラム(MAJESTY)、
サイエンスアゴラ2006
プログラム委員会

